

# 助動詞 標準

空欄に適する語句を選びなさい。

- Tom [            ] golf in the past, but he no longer does so.

(愛知学院大)

- ① is used to play [校正用: false]
- ② is used to playing [校正用: false]
- ③ used to play [校正用: true]
- ④ used to playing [校正用: false]

解答：③

## 【設問の解説】

「トムはかつてゴルフをしていたが今はもうしていない。」

現在と対比して「（以前は）～だった（が、今はちがう）」という意味は **used to** で表す。類似表現のwould (often)には、この意味はないので要注意。

なお、used toの形を含む表現には、区別が紛らわしいものがあるので注意しよう。

**used to do** 「（以前は）よく～したものだっただけ／（以前は）～だった（が、今はちがう）」  
→助動詞

**be used to doing** 「～することに慣れている」  
→このusedは形容詞

**be used to do** 「～するために使われる」→不定詞の副詞的用法を使った受動態の文

空欄に適する語句を選びなさい。

- I have had no news from you for a long time. You [            ].

(大妻女子大)

- ① didn't have to write to me [校正用: false]
- ② must have written to me [校正用: false]
- ③ should have written to me [校正用: true]
- ④ used not to write to me [校正用: false]

解答：③

【設問の解説】

「ずいぶん連絡がなかったじゃないか。手紙くらい寄こしてくればよかったのに。」

1文目の「ずいぶん知らせがなかった」と文意が合うのは、**should have done** 「～すべきだったのに（実際はしなかった）」。

① didn't have to do 「～する必要はなかった」

② must have done 「～したにちがいない」

③ used not to do 「（以前は）～しなかった」

**have no news from** ～ 「～の連絡〔便り〕がない」

文法・語法上の誤りのある箇所を1つ選びなさい。

- 一生懸命やったが、地下室へ通じるドアはどうしても開かなかった。

① Although I tried hard, the door ② to the basement ③ couldn't ④ open .

（岡山理科大）

- ① [校正用: false]
- ② [校正用: false]
- ③ [校正用: true]
- ④ [校正用: false]

解答：④ → wouldn't

【設問の解説】

「（なかなか）～しようとしなない〔しなかった〕」は **will [would] not do** で表し、**refuse(d) to do** 「～するのを拒絶する」とほぼ同じ意味。**主語の強い意志** を表す助動詞willの用法だが、助動詞can[could]にこの用法はない。

正解選択肢と「解答：」の次の文字が一致し  
ません

空欄に適する語句を選びなさい。

- It is essential that they [        ] understand.

(金城学院大)

- ① shall [校正用: false]
- ② should [校正用: true]
- ③ will [校正用: false]
- ④ would [校正用: false]

解答：②

【設問の解説】

「彼らが理解することは必要不可欠である。」

〈It is + 形容詞 + that S V 〜〉「〜するのは...だ」という文で、necessaryのような **必要・要求** を表す形容詞が入るときは、that節のなかは原則的に 〈 S ( **should** ) + **原形** 〉という形にする。shouldを省略して 〈 S + **原形** 〉という形になることもある。

〈It was + 形容詞 + that S V 〜〉という過去の文で合っても、〈 S ( **should** ) + **原形** 〉や 〈 S + **原形** 〉の形は変わらないことにも注意。

空欄に適する語句を選びなさい。

- I [        ] talk about it.

(白百合女子大)

- ① not would rather [校正用: false]
- ② would not rather [校正用: false]
- ③ would not rather to [校正用: false]
- ④ would rather not [校正用: true]

解答：④

【設問の解説】

「私はそのことについて話したくない。」  
**would rather** do 「（むしろ）～したい」の否定形は語順に注意。**would rather**を1つのかたまりと考えて直後に**not**をつけ、**would rather not** do 「（むしろ）～したくない」という形で表す。

空欄に適する語句を選びなさい。

- I [            ] to Tracy before she left for Boston, but I didn't.

（高知大）

- ① may well talk [校正用: false]
- ② may as well talk [校正用: false]
- ③ must have talked [校正用: false]
- ④ should have talked [校正用: true]

解答：①

【設問の解説】

「トレイシーがボストンへ発つ前に彼女と話すべきだったのに、私は話さなかった。」  
**should [ ought to ] have done** は「～すべきだったのに（実際はしなかった）」という意味。文の後半のbut I didn't「だが、私はしなかった（＝話さなかった）」に注目。

- ① may well talk 「話すのはもっともだ」
- ② may as well talk 「話したほうがいい」
- ③ must have talked 「話したにちがいない」

**正解選択肢と「解答：」の次の文字が一致しません**

文法・語法上の誤りのある箇所を1つ選びなさい

- I ① missed the bus and was ② late for class ③ on the first day of school. I ④ should have left home earlier next time.

(静岡大)

- ① [校正用: false]
- ② [校正用: false]
- ③ [校正用: false]
- ④ [校正用: true]

解答：④ → should leave

【設問の解説】

「バスに乗り遅れて登校初日から授業に遅刻した。次はもっと早く家を出たほうがいい。」

**should have done** は「～すべきだったのに（実際はしなかった）」という意味で、過去の行為に対する **後悔** を表す。本問では、文末に next time 「次からは」とあり、未来に向けた **義務・忠告** を表す内容なので、完了形ではなく **should do** 「～するべきだ／～したほうがいい」という形にする。

空欄に適する語句を選びなさい。

- When I arrived at the meeting, there was nobody here. It had been cancelled. I [            ] .

(玉川大)

- ① needed to go [校正用: false]
- ② didn't like to go [校正用: false]
- ③ cannot have gone [校正用: false]
- ④ needn't have gone [校正用: true]

解答：④

【設問の解説】

「会議の場に到着すると、そこには誰もいなかった。会議は中止になっていた。行く必要はなかったのだ。」

**need not [ needn't ] have done** 「～する必要はなかったのに（実際はしてしまった）」を使う。助動詞 **need** は、原則として **否定文** または **疑問文** で使われる。

need not [ needn't ] do～「～する必要はない」

Need S do～？「Sは～する必要がありますか」

本問は、さらに完了形といっしょに使うことで過去の行為に対する後悔を表している。

cannot have done 「～したはずがない」

空欄に適する語句を選びなさい。

- I'm awfully sorry, but I had no alternative. I simply [            ] what I did.

(山梨大)

- ① ought to have done [校正用: false]
- ② must do [校正用: false]
- ③ had to do [校正用: true]
- ④ have had to do [校正用: false]

解答：③

【設問の解説】

「たいへん申しわけありませんが、しかたなかったんです。ただああするしかありませんでした。」

文意から、前文のI had no alternative. と時制をそろえる必要があるので、②④は時制が合わない。①は ought to have done 「～すべきだったのに（実際にはしなかった）」という意味で、「自分のしたことをすべきだったのに」という不自然な文になるので不適切。have to do 「～しなければならない」の過去形had to doであれば、文意に合う。

空欄に適する語句を選びなさい。

- I could not [            ] worry about my daughter.

(－)

- ① help [校正用: false]
- ② but [校正用: true]

- ③ too [校正用: false]
- ④ much [校正用: false]

解答：②

【設問の解説】

「私は娘のことを心配せずにいられなかった。」

cannot [ can't ] but do 「～せざるを得ない」  
は、助動詞を使った慣用表現なので、このままの形でしっかり覚えておこう。なお、cannot[can't]を使った類似表現がいくつかあるが、butのあとは動詞の原形がつづくことに注意。

cannot[can't] but do 「～せざるを得ない」

= cannot [ can't ] help but do

= cannot [ can't ] help doing

ここに参考書リンクが入ります